

2018年3月11日(日)／説教者:神谷武宏
親子礼拝(緑ヶ丘保育園卒園児親子をお招きして)

説教:「わたしが命のパンである」

聖書:ヨハネによる福音書6:33～35

アンパンマンの歌「アンパンマンのマーチ」がある。歌詞を紹介すると…

そうだ！うれしいんだ生きる喜び たとえ胸の傷が痛んでも
何のために生まれて 何をして生きるのか
答えられないなんて そんなのは嫌だ！
今を生きることで 熱いこころ燃える だから君は行くんだ微笑んで。
そうだ！うれしいんだ生きる喜び たとえ胸の傷が痛んでも。
嗚呼アンパンマンやさしい君は 行け！皆の夢守るため

今日3月11日は、「東日本大震災」7年目。アンパンマンの歌は、震災で苦しむ被災地によく聴かれたという。「何のために生まれて 何をして生きるのか」と多くの方々がそう苦しんでいる状況の中でこの歌は、その問いに「答えられないなんて そんなのは嫌だ！」と叫ぶ。そして、「今を生きることで 熱いこころ燃える だから君は行くんだ微笑んで。そうだ！うれしいんだ 生きる喜び たとえ胸の傷が 痛んでも。」苦しむ人々に共感を与え、元気を与えてくれたという。

アンパンマンは、はじめ絵本で登場する。それは砂漠に行く飢えた旅人のところにアンパンマンが現れて自分の頭を食べさせるものであった。そして、顔が半分食べられた状態で帰っていく。見た目はお世辞にも格好いいとは言えない。お母さん方には、あまりにグロテスクだとかなりひんしゆくをかったと言われている。ただ、何故アンパンマンは自分の顔を空腹な者に食べさせるのか？パンを沢山持ってきて配れば、自分も格好悪くならないし、空腹の子どもたちも助けられるのに。そう考えたことはないか？実は作者やなせたかしさんがこだわる愛のメッセージがここにある。作者がこだわったのは、“犠牲愛”というもの。

愛とか、正義というものは、自分が傷つかないで、愛とか正義を行うことは出来ない。傷つかないでそれを愛、正義とっているのは本物ではないということ。私たちは必ず、誰かの愛を受けて今を生きている。愛を受けなければ人間は生きていけない。私たちは誰の愛を受けているものか。そしてその人は傷つく…。でも愛するって喜びを持ってするものだから、「たとえ胸の傷が痛んでも」愛するのである。

イエスは、私たちを愛するがゆえに十字架にかかられた。神の子は十字架にかからなくても何でも出来たはずなのに…血を流された。それは私たちに真の愛を示すためである。

今朝の「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」とは、アンパンマンが言っているように、「僕を食べて」と同じこと。イエスはご自分の体を傷つけ、命を捧げて私たちに神の愛を示された。その愛に私たちは、気づいているだろうか。(神谷)